令和元年度第１回「北海道史への扉」編集小部会議事録

日　時：令和元年７月１日（月）10:45～11:05
場　所：北海道庁本庁舎５階　道史編さん室
参加者：平野小部会長、小内委員、道史編さん室（靏原、中谷、伊藤、山本）

１　開　会

２　議事
（１）　道史編さん機関誌の内容構成について
（２）　誌名について

３　閉　会

１　開　会

○平野小部会長

先ほど企画編集部会で小部会の設置が決まったばかりですが、この機会に、奥田委員は欠席ですが小部会を開催したいと思います。

２　議事

（１）道史編さん機関誌の内容構成について

○平野小部会長

早速ですが、このあとの段取りはどうなりますか。

○靏原室長

発行は年度末です。まずは原稿依頼を誰にするか決めることが必要です。機関誌の名前を決める必要もあります。

○小内委員

分量は８頁になりますか。

○靏原室長

電子なので頁数の縛りはなく、３～４編あって事務局からの報告があってとなります。第一号なので、編集長の発刊の辞から始まることが多いです。

○小内委員

「新しい道史」の例では、総務部長が書かれています。

○靏原室長

総務部長よりも、編さん委員会の委員長が小磯修二先生なので小磯先生の方がよいと思います。

○小内委員

今回は現代史中心という変わった構成なので、そういう全体像はどなたに書いてもらえばいいでしょうか。

○平野小部会長

それは委員長がいいですね。

○小内委員

年度末に発行するとなると、どういうスケジュールになりますか。締切は２月いっぱいくらいで大丈夫ですか。

○靏原室長

今年の２月３月は事務局がものすごく忙しかったのです。先生方の大学のお休みの関係で、ずっと調査に出ている感じでした。１月であれば少しは楽だと思います。すぐ小部会でチェックしていただいて、戻ってくるのが１月中旬・下旬、２ヶ月かけてアップの準備をするというのではいかがですか。

○平野小部会長

そうですね。ところで執筆要領は必要ですよね。

○小内委員

過去の参考になるものはありませんか。

○靏原室長

新札幌市史のものを榎本委員に確認してみます。

○平野小部会長
　旭川市史のものも見てみます。冊子の後ろに載っていたのではないかと思います。新札幌市史も、もしかしたら同じかもしれません。
○靏原室長
　編さんが始まったときには、「新しい道史に望む」のようなものが、どこでもよくあって、無いと物足りない感があると思います。人選はいかがしましょうか。
○平野小部会長
　●●先生、●●先生ではいかがでしょうか。
　そのお２人は依頼原稿にあたりますが、それ以外に、編さんに関わっている先生方から調査報告などを上げてもらうのも、よいのでは。
　調査に行った場合には調査報告は上げられているのでしょうか。
○靏原室長
　それほど厳密ではありません。調査がある程度進んだ先生に各部会で部会長から名指ししてもらえないでしょうか。
○小内委員
　お願いするとなると文字数は。
○靏原室長
　論文であれば２万字程度で、それ以外なら５千字程度でしょうか。文字数は特に縛りはありません。
○平野小部会長
　余話、余録のようであれば短くてもいいかもしれません。
　では、事務局の方で今出てきた話を項目にしていただいて、その内容をひな形にまとめてください。それで足りない部分は誰にお願いするかという話になるので、９月くらいまでに形が出てきた方がいいのでしょうか。
○靏原室長
　編集長の発刊の辞と、小磯委員長に書いてもらうのと、依頼原稿として「道史に望む」があれば、あと２編くらいあればボリュームとして十分です。
○平野小部会長
　そうですね。
○靏原室長
　社会・文化小部会の調査の進んだ先生で、書いてもらえそうな方はいらっしゃいますか。
○小内委員
　●●先生、●●先生、●●先生、●●先生でしょうか。当たってみます。小川委員もどうでしょうか。
○平野小部会長
　そうですね。発刊には一番ふさわしいです。

（２）誌名について
○平野小部会長
　誌名は「扉」ではどうですか。

○小内委員
　「北海道史への扉」ではどうですか。
○平野小部会長
　いいですね。そうしましょう。この小部会の名称も「北海道史への扉」編集小部会とします。
○靏原室長
　執筆要領は、新札幌市史と旭川市史の両方調べてみます。
○平野小部会長
　お願いします。

３　閉　会
○平野小部会長
　それではこれで終了します。ありがとうございました。

（了）